

西沢渓谷

西沢・行者谷

メンバー:三井(記)、柳下

遡行日:12年11月4日

「親睦会」の翌日、勝手をいって沢に行かせて貰う。

西沢渓谷の沢という遡行対象の沢は殆ど東沢にあり、西沢は観光ポイントになっている「七ツ釜」が有名だがそれ以外、沢登りの対象となる沢は思い浮かばない。

ただ沢のガイド集を見ると数本の沢が記載されていて、今回の「行者谷」はその一本で、初級の短い沢のようだ。

親睦会場の神戸別邸から30分も車を走らせると西沢渓谷の駐車場。

秋の紅葉シーズンの直中とあって既に駐車場も満車状態。手早く支度を済ませ、多くのハイカーや観光客に混じって渓谷沿いの道を足早に辿って行く。東沢に架かる吊り橋を渡るといつもは右に折れ東沢に入るのだが今日は左。西沢に沿って左岸道を進む。

西沢渓谷のハイライト「七ツ釜」は随分久しぶりの再見だが本当に素晴らしいと思う。正に自然の造形の妙、という他はない。思わず見とれて歩みも止まる。

「七ツ釜」を過ぎると登山道は右岸の急登となって軌道跡にでる。軌道跡はここから下流はハイキング道として整備されているが、上流側は直ぐ先の黒金山の登山口を過ぎると崩壊したまま手入れもされず放置されていて通行禁止となっている。

通行禁止の看板を無視して先に少し行くと軌道の下が崩れ落ち、レールがむき出しになって丸太が渡してある。ガケになっているので恐るおそる渡り先に進むと直に「行者谷」の出会い。軌道のすぐ下流に20m程の滝がある。

ここで沢の装備を身につけ遡行開始となる。

沢はゴロ状で兩岸も広がっていて何も無い雰囲気。

崩壊して倒木の散乱した箇所を過ぎると6mの滝。右岸側に何かしっかりと鉄鎖が垂れている。

濡れそうなので左岸から簡単に巻く。

沢は流石に肌寒く、濡れた岩を掴む指が冷たいし、水流わきは薄氷が張っているので滑りやすく迂闊に足は置けない。

小滝を越えると10mほどの滝。ここにも先ほどと同様の鎖がたれているがここは洩れ滝でしかも階段状なので、快適に登れる。

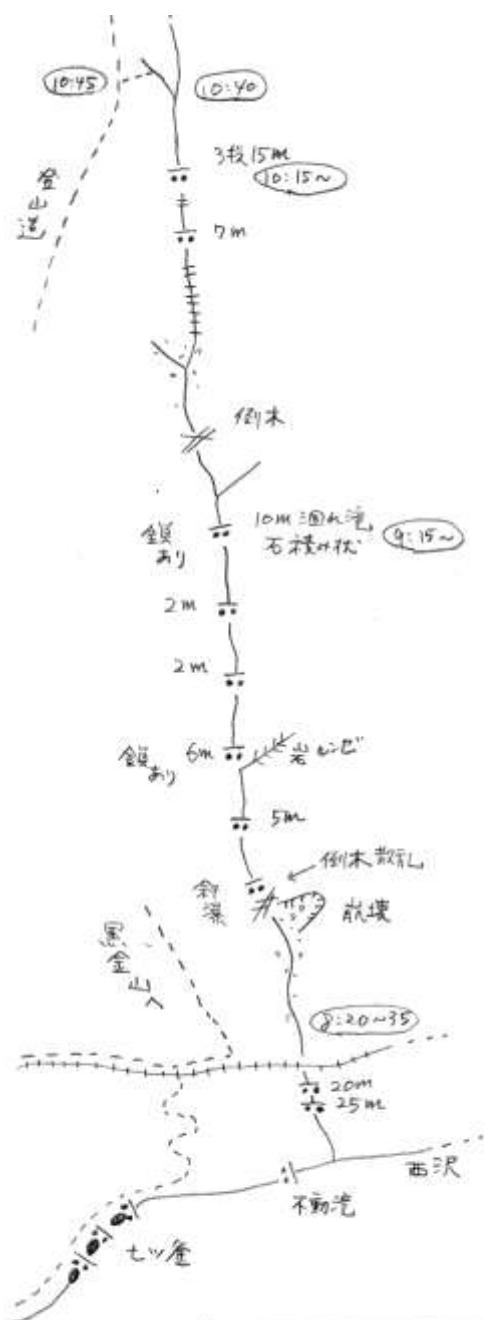
漸く日差しが谷に差し始めてきたので陽だまりを求めて小休止。

何も厄介な所はない初級の沢だが今の時期、沢にいられるだけで文句はない。柳下さんも「いいですねえ。」の声。今シーズンも間もなく終了だなあ。

ナメ状になった沢を快適に通過していくと3段15mの滝。適当にどうとでも登れる。

この先は小滝が数本あるだけで終わりそうだ。右岸に小さな枝沢が現れたのでそれをつめるとあっけなく黒金山からの登山道にでる。沢道具を仕舞ってあとは登山道を下るだけ。

西沢右岸の軌道跡の周遊道で大勢のハイカーに混じって辿り、車に戻る。



12年11月4日
 奥秩父 西沢 / 行者谷